

ホルムアルデヒド放散等級区分

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます

水性2液型シリコン系高性能クリヤー

水性CRYSTALROCK

リアルハイブリッドセラミック系クリヤー

UVガードクリヤー



ROCK PAINT

水性CRYSTALROCK 水性UVガードクリヤーの特長



高耐候性

水性のUVガードクリヤーは、柔軟性を発揮する有機成分と耐久性を有する無機成分(Si)との特殊な水性ハイブリッド樹脂により、優れた耐候性を発揮します。

低汚染性

塗膜表面のシリコン成分が降雨などの水分と反応するシロキサン結合により、強固なセラミック成分を複合化した塗膜となるため、親水性に優れた低汚染性を発揮します。

耐紫外線性

特殊樹脂による独自の反応硬化技術により、紫外線の透過を抑制し、基材の意匠性を守ります。

防藻・防カビ性

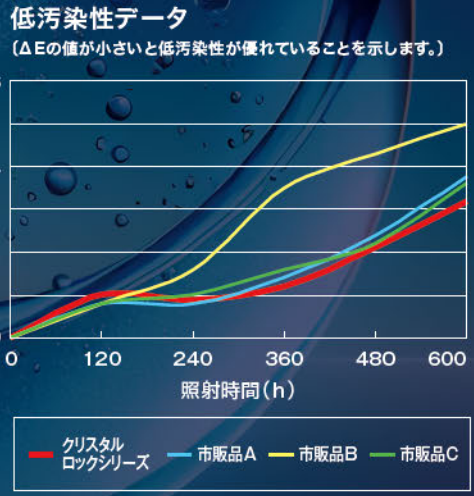
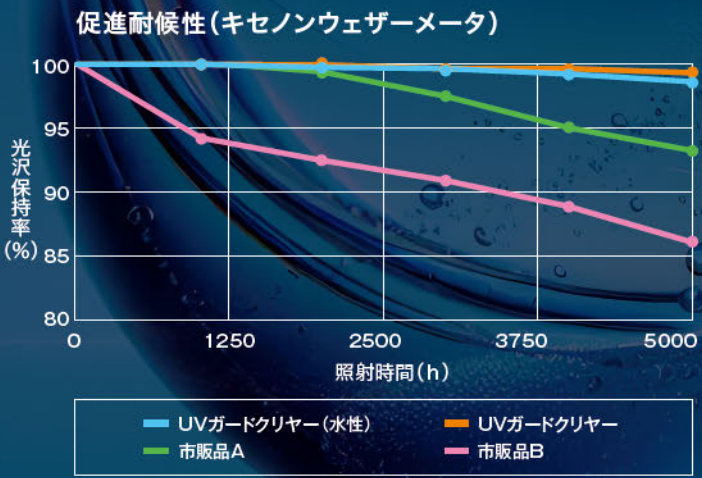
防藻・防カビ剤を最適配合し、藻やカビの発生を長期間抑制し、清潔な住環境を維持します。

鉛クロムフリー

健康に有害な鉛・クロムなどの重金属を原料として使用していません。

無機と有機の水性ハイブリッド樹脂×ラジカル制御技術

無機と有機のハイブリッド技術と紫外線の透過を防ぐ技術により形成される塗膜は、高耐久性・低汚染性など各種性能を発揮します。そのため水性のUVガードクリヤーによる保護塗装は、その下の旧塗膜、あるいは水性クリスタルコート工法時の着色塗膜層に含まれる劣化因子(ラジカル)の発生も同時に抑制することが出来ます。



塗料の低汚染技術

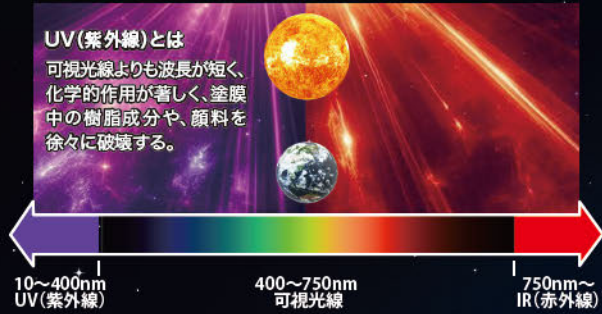
塗膜表面における、低汚染メカニズム

シロキサン結合による強固なセラミック成分を複合化した塗膜は、汚染物質が付着しにくく、付着しても雨などが汚染物質の内側に入り込みながら流れ落ちるため、塗装直後の美観を維持します。



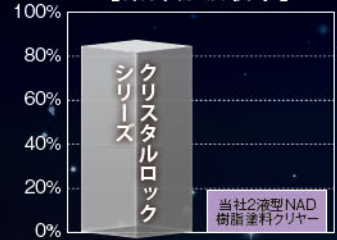
耐紫外線性

紫外線は太陽光に含まれ、化学的作用の強い10-400nmの波長を有し、意匠性サイディングボードの塗膜を徐々に劣化・破壊し、意匠性が失われていきます。クリスタルロックシリーズは紫外線の透過を従来製品よりも格段に抑制し、基材表面の劣化を防ぐことが出来ます。また、クリスタルロックシリーズ自身の耐候性も、リアルハイブリッド構造により、格段に高く、長期間意匠性を守ります。

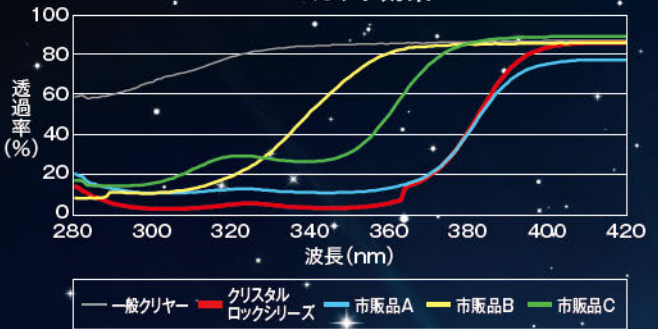


- ・UV-A(315-400nm) 化学的作用 中 地表に到達するUVの99%。 **280-400nmをカットする必要!**
- ・UV-B(280-315nm) 化学的作用 大 地表に到達するUVの1%。
- ・UV-C(280nm未満) 化学的作用 特大 オゾン層に吸収され地表に到達しない。

【紫外線吸収率】



UVカット効果



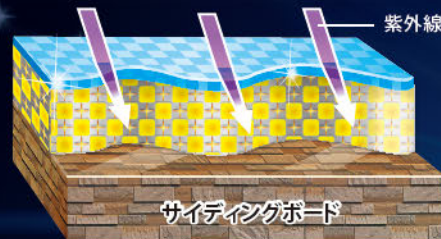
特殊樹脂による独自の反応硬化技術により、紫外線の透過を長期的に抑制し、サイディングボードの意匠性を守ります。

紫外線透過のメカニズム



従来のクリヤー仕様では、紫外線が塗膜を破壊し、新築時の風合いを維持することは困難でした。

水性クリスタルロックの紫外線カットメカニズム

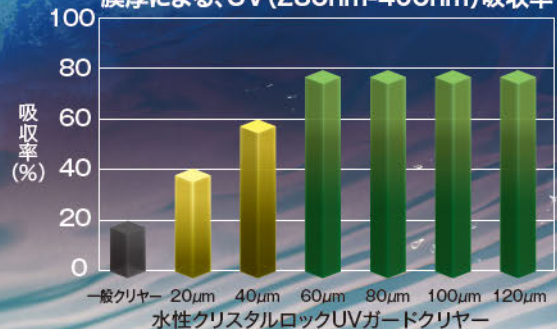


クリスタルロックシリーズにより塗膜表面で紫外線の透過を防ぎサイディング表面の塗装の劣化を抑制します。また強靱な塗膜硬化により長期間、耐久性を発揮します。

UV(280nm-400nm)吸収率 各社比較

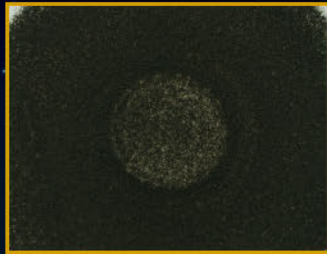


膜厚による、UV(280nm-400nm)吸収率



※上記に記載された図やグラフ、数値等は特定の試験の場合における実測値または計算値であり、その効果、性能を保証するものではありません。

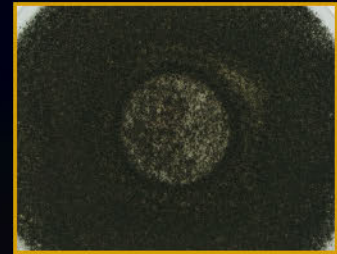
防カビ性試験結果 (JIS Z 2911 カビ抵抗性試験の試験方法に準ずる。)



防カビ剤なし



水性クリスタルロック
UVガードクリアー



市販品

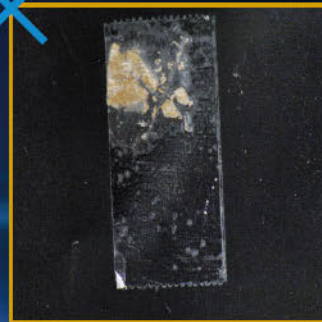
塗装可否判断方法

(被塗物の状況によっては塗装に適さない場合があります。)

サイディングボードにカッターでバツ印をつけ、セロテープで剥離試験を行う。



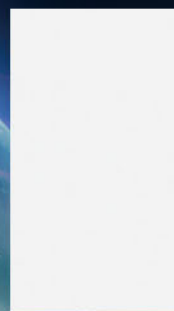
着色層、クリアー層共に剥離なし。
塗装可能



劣化着色層剥離
塗装不可



劣化クリアー層剥離
塗装不可



白亜化度1~2 塗装可能

白亜化度3~5 塗装不可

※上記の塗装可否判断方法は全ての状況に適用できるものではありません。必ずテスト施工及びサイディングの種類等をご確認ください。
塗装可能な状況であっても、サイディングの表面コーティングの種類によっては剥離を起こす場合があります。

水性クリスタルコート工法

水性クリスタルロックは、紫外線の透過を抑制する機能により、サイディングの意匠性を損なわずに仕上げる工法だけではなく、着色工法の場合には、着色層の顔料の経時劣化により白亜化を抑制するクリアーコート工法もあります。

【従来の着色工法から水性クリスタルコート工法へ】

一般的な着色工法では、紫外線等による経時劣化で樹脂分、顔料分が表層に現れ劣化していく事で、チョーキング（白亜化）となります。水性クリスタルコート工法により、着色層の直接的劣化を防ぎ、色あせを防ぐことが出来ます。



塗料ごとの塗り替え回数（新築住宅50年間で試算した場合）

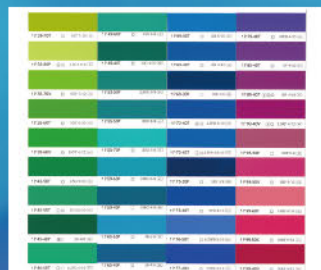


※期待耐用年数は、次回塗り替え時期の目安としてであり、塗装する地域、立地条件、塗装面の方角によって異なります。

【水性クリスタルコート工法の推奨仕上げ】

- 濃彩色や鮮やかな色など、紫外線の影響を受けやすい色や、遮熱色など経年による変退色の傾向が一般塗料と異なる塗料の仕上げクリヤーとして。
- 住宅のベランダや公共の施設などの手すりのある箇所の仕上げクリヤーとして。（着色層の白亜化粉が衣服などに付着することを防ぎます。）

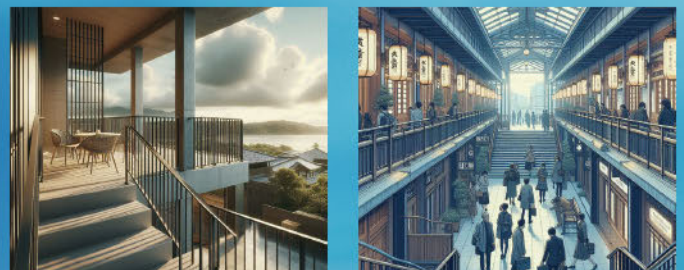
【濃彩色、高彩度色】



【推奨着色仕上げのクリアーコート仕上げ】

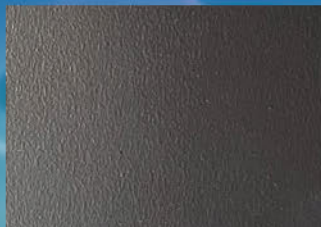
- 水性1液架橋型低汚染 リアルハイブリッドシリコン 樹脂塗料 「ハイパービルロックセラ」

【住宅のベランダや公共の施設などの手すり】



【推奨塗装工法】

水性クリスタルロック ツヤあり仕上げ



111L 黒5分ツヤのみ

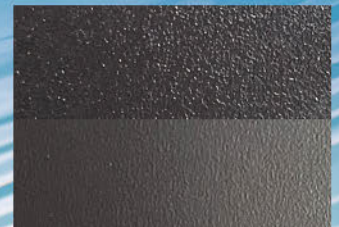


111L 黒5分ツヤ+水性クリスタルロック ツヤあり

水性クリスタルロック 3分ツヤあり仕上げ



111L 黒ツヤありのみ



111L 黒5分ツヤ+水性クリスタルロック 3分ツヤ

商品構成

品番	品名	容量
159-5150	水性クリスタルロック UVガードクリヤー ツヤあり (主剤)	14kg
159-5153	水性クリスタルロック UVガードクリヤー 3分ツヤ (主剤)	14kg
159-5110	水性クリスタルロック UVガードクリヤー 硬化剤	1kg

※標準塗布面積 (15kgセット・回) / 93~150㎡

塗り重ね可能時間・可使用時間

温度	10℃	23℃	30℃
塗り重ね可能時間	4時間以上	4時間以上	3時間以上
可使用時間	8時間	6時間	3時間

標準塗装仕様 (塗り替え)

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法 希釈率 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/㎡・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜のはがれ部分、ふくれ部分等は皮スキ、ワイヤーブラシ等のケレン具を用いて完全に除去する。旧塗膜剥離部分は必要に応じて補修塗装する。またエフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。					
下塗り	159-5150 水性クリスタルロック UVガードクリヤー ツヤあり 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~10 エアレス: 10~20	1	0.10~0.16	4時間以上
上塗り (ツヤありの場合)	159-5150 水性クリスタルロック UVガードクリヤー ツヤあり 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~10 エアレス: 10~20	1	0.10~0.16	-
上塗り (3分ツヤの場合)	159-5150 水性クリスタルロック UVガードクリヤー 3分ツヤ 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~10 エアレス: 10~20	1	0.10~0.16	-

クリスタルコート工法 (塗り替え)

窯業系サイディングボード面等 ツヤあり仕上げの場合

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法 希釈率 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/㎡・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜のはがれ部分、ふくれ部分等は皮スキ、ワイヤーブラシ等のケレン具を用いて完全に除去する。旧塗膜剥離部分は必要に応じて補修塗装する。またエフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。					
下塗り	ハイパーシーラーアクア 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水 (通常不要)	ハケ、ローラー: 0 エアレス: 0	1	0.08~0.13	4時間以上
中塗り*	ハイパービルロックセラ5分ツヤ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	2時間以上
上塗り*	ハイパービルロックセラ5分ツヤ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	8時間以上
クリヤーコート	159-5150 水性クリスタルロック UVガードクリヤー ツヤあり 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~10 エアレス: 10~20	1	0.10~0.16	-

窯業系サイディングボード面等 3分ツヤ仕上げの場合

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法 希釈率 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/㎡・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜のはがれ部分、ふくれ部分等は皮スキ、ワイヤーブラシ等のケレン具を用いて完全に除去する。旧塗膜剥離部分は必要に応じて補修塗装する。またエフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。					
下塗り	ハイパーシーラーアクア 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水 (通常不要)	ハケ、ローラー: 0 エアレス: 0	1	0.08~0.13	4時間以上
中塗り*	ハイパービルロックセラ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	2時間以上
上塗り*	ハイパービルロックセラ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	8時間以上
クリヤーコート	159-5153 水性クリスタルロック UVガードクリヤー 3分ツヤ 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~10 エアレス: 10~20	1	0.10~0.16	-

鉄・非鉄金属面 ツヤあり仕上げの場合

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法 希釈率 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/㎡・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜ではがれかかった部分、ふくれ部分は皮スキ、ワイヤーブラシ等のケレン具で、浮き塗膜、サビなどは電動工具、手工具で除去する。チョーキングした面、汚れ、じんあいなどはサンドペーパー、ウエス等で除去し、乾燥した清浄面とする。					
下塗り	ハイプライマーアクア 配合比 (重量)主剤2:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~5 エアレス: 5~10	1	0.14~0.16	4時間以上
中塗り*	ハイパービルロックセラ5分ツヤ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	2時間以上
上塗り*	ハイパービルロックセラ5分ツヤ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	8時間以上
クリヤーコート	159-5150 水性クリスタルロック UVガードクリヤー ツヤあり 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~10 エアレス: 10~20	1	0.10~0.16	-

鉄・非鉄金属面 3分ツヤ仕上げの場合

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法 希釈率 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/㎡・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜ではがれかかった部分、ふくれ部分は皮スキ、ワイヤーブラシ等のケレン具で、浮き塗膜、サビなどは電動工具、手工具で除去する。チョーキングした面、汚れ、じんあいなどはサンドペーパー、ウエス等で除去し、乾燥した清浄面とする。					
下塗り	ハイプライマーアクア 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~5 エアレス: 5~10	1	0.14~0.16	4時間以上
中塗り*	ハイパービルロックセラ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	2時間以上
上塗り*	ハイパービルロックセラ (指定色)	水	ハケ、ローラー: 5~15 エアレス: 10~20	1	0.12~0.18	8時間以上
クリヤーコート	159-5153 水性クリスタルロック UVガードクリヤー 3分ツヤ 配合比 (重量)主剤14:硬化剤1	水	ハケ、ローラー: 0~10 エアレス: 10~20	1	0.10~0.16	-

*上記はクリヤー塗装の塗り残し防止の標準仕様となります。

ベースコートはクリヤーと同光沢でも塗装可能ですが、クリヤーコートは塗り残しがないようにご注意ください。
*水性クリスタルコート工法ではクリヤーコート後の色調が、ベースコートまでの色調と異なって見える場合があります。
塗板見本等で事前確認の上、施工願います。

※標準塗付量は被塗物の形状、素材、塗装方法などによって異なります。

施工上の注意事項

- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 気温が低いときや湿度が高い場合には、完全な塗膜ができにくく十分な性能を発揮できませんので、気温5℃以下、湿度85%以上の塗装は避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 塗料全体をよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- 作業能率の低下および塗りムラの原因になるため、スプレーノズルの先端は時々洗浄してください。
- ハケ・ローラーなどの塗装用具は水性用を使用してください。
- ハケ塗りとローラー塗りで仕上げが混在する場合、塗り肌が異なり、色相に差が出やすいので、ハケ塗り部分の希釈をやや少なめに塗装してください。
- ツヤの調整品は、塗り終りや補修の際につやむらが出やすいため、面を切って通して塗装してください。
- 硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がりが外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。
- 硬化剤を配合した塗料は、時間の経過と共に増粘・固化して使用できなくなります。配合した塗料は可使時間内に使い切ってください。
- 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。上塗りとの付着性が低下します。
- 塗料液と硬化剤には、湿気と反応する成分が含まれています。貯蔵の際は密栓し冷暗所に保存してください。また、開栓後はできるだけ早めにご使用ください。水・アルコール系の溶剤の混入は絶対的に避けてください。
- 水性クリスタルロックは下地の状態がそのまま反映されます。高圧洗浄、水拭きにより除去できないエプロレックス、チョーキング部分、ゴミ、ほこり、泥、油分などの汚れがある場合は施工を避けてください。エナメル(着色)塗装をお奨めします。
- 高圧水洗浄や水拭きを行った場合、水滴跡が残らないよう乾拭きを行ってください。水滴跡もそのまま反映されます。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは外部の塗装を避けてください。
- シーリング材は原則として、後打ちにて施工してください。やむを得ずシーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良を起こしたり、表面が汚れてくる場合があります。試し塗りをを行った後仕様を決めてください。
- 外部の塗装について、塗料臭気が室内に入らないように換気装置などを停止し、開口部などの養生を行ってください。
- 塗装面の取り合い等で可塑性が多く含まれる建材(塩ビ鋼板、ラミネート鋼板、プラスチック、ゴムパッキン、塩ビクロスなど)への直接の塗装は塗膜が軟化することがあり避けてください。また、これらの素材に塗膜が接触・付着しないように注意してください。
- 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、その他の断熱性が付与された建材など)を使用した高断熱型住居の外装を塗装する場合、状況により蓄熱、水分、素地、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、素地の変形、塗膜のふくれ、はがれなどが発生する場合があります。詳しくは最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 空木、天端など長時間水の滞留する箇所では塗膜の白化、ふくれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- サイディングボード表面に反り、うねりが発生している場合は、ビスの増す打ちなど状況に応じた補修を行ってください。また補修が困難な場合はボードの張り替えを行ってください。
- 光触媒や強い撥水性処理が施されたサイディングボードには適用できません。ご注意ください。
- サイディングボードの種類が不明の場合は、試し塗りをを行った後仕様を決めてください。
- 新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。

安全衛生上及び取扱上の注意

(製品の危険・有害性)

- 危険性のほとんどない製品ですが、目や呼吸器に入ることは避けてください。(主剤)
- 引火性の液体である。(硬化剤)
- 溶剤蒸気を吸収すると有機溶剤中毒になるおそれがある。(硬化剤)
- 眼、皮膚、粘膜等に対し刺激性がある。(硬化剤)

(救急処置)

- 眼に入った場合には多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化がある時は医師の診察を受けてください。

(取扱注意事項)

- 取扱は引火源のないところで行い、特に静電気が発生するような衣服、取扱は避けてください。(硬化剤)
- 塗装中、乾燥中ともに換気をよくしてください。

- 塗る面のエプロレックス、レイタンスなどは除去し、コンクリートの目違い、ジャンカ、コールドジョイントがある場合は樹脂モルタルなどで平滑にしてください。
- 屋外セメント系素地に段差・巣穴などがある場合は、セメントフィラーを用いて不陸調整を行ってください。
- サビについては完全に除去後、削りカス(サビ、鉄くず)を完全に除去してください。サビの発生原因となります。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 使用後のハケなどの用具や、手に付いた塗料はできるだけ早く水で洗い落してください。乾くと落ちにくくなります。
- 塗装後24時間以内に降雨、結露があった場合、白化やシミが残る場合があります。また、低温時や高湿度、通風が悪い場合も白化やシミになる場合があります。
- 改修塗装の場合、素地の種類や下地処理方法によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りをすることをお奨めします。
- 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクサンダー、皮スキ、ワイヤーブラシなどで除去し、高圧洗浄を行った後、24時間以上乾燥させてください。(気温23℃、湿度65%の場合)
- 旧塗膜が弾性系の塗膜(弾性リシン、弾性スタッコ)やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すでにふくれが発生していることがあります。そのまま塗装するとふくれが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗付量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。塗り重ね可能時間(乾燥時間)は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより、多少変わります。
- 各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となる事があります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- この塗料はホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆タイプです。F☆☆☆☆以外の材料(被塗物、素地を含む)を使用したり、各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合、F☆☆☆☆でなくなる場合がありますので注意してください。
- 低汚染性については被塗物の種類や建物の形状により、また、施工後特に塗膜が十分に乾燥する前、もしくは乾燥して初期の段階で天候不良であった場合、その効果が十分に発揮されない場合があります。
- 水性クリスタルロック塗装後の養生可能時間(マスキングテープ可能時間)は、24時間(23℃)以上です。
- シーリング材可塑性プリード防止プライマー(バリアプライマー、逆プライマー、当社製品051-0200ロックンタックプライマーS)は施工しないでください。塗膜黄変の原因となります。
- 防藻・防カビ処理剤を使用すると黄変することがありますので使用しないでください。
- エポキシ系塗料やその他のエポキシ系補修材などで補修した箇所は、はみ出した材料を除去してください。変色の原因となります。
- 施工後、施工前と比較して、全体的に見かけで色が濃くなる仕上がりになります。ご了承ください。
- 3分ツヤ仕上げの場合、下塗りはクリスタルロックシリーズのツヤありを使用してください。
- 鉄・非鉄金属部の塗装などクリスタルコート工法(着色工法のクワイアコート仕上げ)の場合は、下塗り、中塗り、上塗りの製品カタログ、製品説明書に記載の注意事項をご参照ください。
- 塗装時は樹脂粒子の影響で塗面が白くなりますが、乾燥とともに透明になります。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、降雨、結露等)、塗膜表面が白化するおそれがあります。
- 取扱いの際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート(SDS)をよく読み、注意事項を厳守してください。

- 溶剤蒸気やスプレーダストを吸引しないように、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクなどの適切な保護具を着用してください。(硬化剤)
- 取扱中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護手袋、保護めがね、保護マスクを着用してください。
- 取扱後は、手洗い及びうがいを十分に行い、作業衣等に付着した汚れをよく落とすしてください。
- よくふたをし直射日光を避け、5℃以上40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない一定の場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ってから廃棄してください。
- 指定された以外の製品と混合しないでください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。(硬化剤)

(施工後の安全性について)

- 本製品群は化学物質を含んでおりますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分注意を払うようご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗りたてであるなどの立看板等を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接する事が無いようにご配慮願います。
- ※安全データシート(SDS)をよく読んでから取り扱ってください。

ロックペイント 株式会社

東京営業部 〒136-0076 東京都江東区南砂2-37-2
TEL(03)3640-6000 FAX(03)3640-9000
札幌営業部 〒003-0011 札幌市白石区中央一条4-3-48
TEL(011)812-2761 FAX(011)812-9304
仙台営業部 〒983-0044 仙台市宮城野区宮千代2-3-11 道正ビル201
TEL(022)349-8677 FAX(022)283-3255
西関東営業部 〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本1-15-16
TEL(042)700-3111 FAX(042)700-3112

大阪営業部 〒555-0033 大阪市西淀川区姫島3-1-47
TEL(06)6473-1650 FAX(06)6473-1000
名古屋営業部 〒454-0059 名古屋市中川区福川町1-1
TEL(052)351-6500 FAX(052)361-7433
岡山営業部 〒701-1134 岡山市北区三和1000番34
TEL(086)294-1201 FAX(086)294-6966
福岡営業部 〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3-2-1
TEL(092)962-0661 FAX(092)963-1241



スマートフォン等で読み取っていただくと
ロックペイント(株)のHPをご覧いただけます。
<https://www.rockpaint.co.jp>

- 本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。

販売店